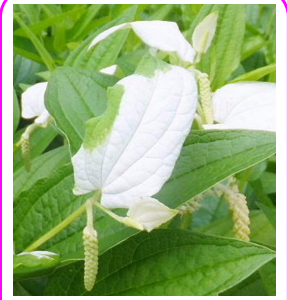


ぎやらりー



NO. 67

2014年7月号



●花の村内散歩
半化粧 (木村成男撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ (堺 汎) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



女川町の皆さんと一緒に水ぎょうざを作って昼食会 (7月5日) =四方久幸撮影

女川・名取へ第5次チーム

「こんにちは。今年もやって来ましたよ」ーグループ〈わ〉の第5次東北支援チーム10人は、7月2日～6日の日程 (4泊5日) で宮城県女川町と名取市の小学校・保育所・児童館・復興住宅を訪問。昔遊びや大道芸、歌、七夕飾り制作、手料理の交歓会、ディスコン遊びで子どもたちや町民の皆さんと楽しいひと時を過ごしてきました。3・4日は福祉振興協会チーム、4日は仙台豊齢チームも仲間に加わり、賑やかな交流会となりました。現地は復興住宅が次々と完成し、土壌嵩上げ・護岸建設などの復興工事が本格化しており、町中が建設ラッシュの真ただ中にある印象でした。面会した女川町の須田善明町長も「災害に泣かない町づくり」への意欲を語ってくれました。=関連記事とが72～4面に。(東北プロジェクト・南形徹)



ボランティアの
輪をひろげよう

67
号の
内容

七夕・昔遊び・手料理・スポーツで多彩な交流 2面

高齢者見回り17年	5面	グループわ第11回定期総会	6・7面
〈わ〉の功労会員表彰	8面	里山守るボランティア最前線	9面
新連載 「介護保険」	10面	ボランティアの心	11面
カレッジだより	12面	WAからのお知らせ	13面

たこ焼き・ディスコンに沸く

集会所で多彩な交流

第5次東北支援チームの一行10人は7月2日朝、新神戸を出発。仙台の豊齢学園で公演内容の打ち合わせを済ませ、レンタカーで石巻の宿舎へ。

3日は協会チーム（5人）と合流。2班に分かれ女川第一保育所と第四保育所へ。第一では90人もの子どもたちが迎えてくれ、紙トンボやマジック、ペーパーハット作りに大はしゃぎ。第四では子供たちが保育所の歌で歓迎してくれました。

午後は女川小へ。1・2年生38人と一緒に七夕飾りの制作です。「サッカー選手になるぞ」「鉄棒ができますように」。願い事をいっぱい書いた短冊をつるし、飾りをぶらさげ大きな笹飾り2本ができあがりました。「わあ、きれい」。さっそく教室に飾られました。協会のドレミちゃんがタップダンス教室を開き、子どもたちは大喜び。夕方、レンタカーで2時間かけて名取へ移動して一泊。

4日の午前中は協会チーム（5人）、仙台豊齢のお手玉チーム（8人）と合流して名取の閑上小へ。

1・2年生合わせて児童わずか12人。スタッフの数の方が多いという変則公演になりましたが、アンパンマン体操やタップダンス、お手玉、昔遊びを全員で楽しみました。午後は名取が丘児童センターで昔遊び、お手玉、大道芸のメニューで交流。豊齢からヨーヨーのお手玉がプレゼントされ大喜びでした。

5日は女川町に戻り、完成したばかりの復興住宅集会所で料理の交歓会です。神戸から持ち込んだ食材は餃子やたこ焼き・おにぎり60人分。「人は来るかな」。かなり心配しましたが予想を超える60人も集まり集会所は満杯。お母さんたちも料理づくに加わって餃子、たこ焼き、おにぎり作りにわいわいと大忙し。さあ、できたできた。「水餃子は初めてだがうまいねえ」「たこ焼きも、イカナゴもおいしい」。賑やかなランチタイムが続く、デザートのスイカもすぐに売り切れ！。スタッフはおにぎりもたこ焼きも口に入らずでした。

食後はショータイム。増金の大道芸、民謡、マ



復興住宅集会所で楽しい餃子づくり。美味しいよ、と子供たち。

ジック…波多野の三味線で歌も次々に。最後の「花は咲く」では皆しんみり。ウルウルになるお母さんもありました。午後は毎年お世話になっている武石久美子さんの案内で町内見学。新しく設置された献花台で犠牲者の冥福を祈りました。

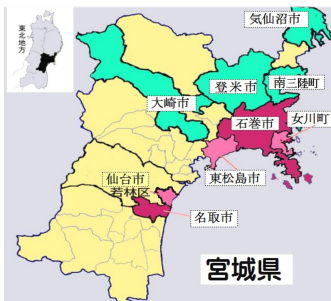
6日は前日と同じ会場でディスコン大会。円盤を転がし、的に近づけるカーリングに似た遊びです。男性や子供たち30人が参加。初心者ばかりでしたが「面白そう。ぜひやりたい」と人気は上々。親子の試合も組まれ、最後は〈わ〉チームと女川チームが対決。女川が逆転勝ちで「やった。やった！」と興奮気味でした。6日夕、仙台から新幹線で帰途につきました。

第5次チームは6人を公募

第5次チームは5月末をメドに公募。自薦・他薦の中から現役を含む6人を決定。本部理事4人と合わせ計10人のチーム編成となりました。うち5人が初参加。

【第5次チーム】 団長・堺汎（園15） リーダー・古後健一（健18） 総務・海野龍英（食16） 記録・四方久幸（国18） 増金スミ子（福11） 波多野武郎（食16） 橋野美子（一般） 森田富治子（食16） 川毛聡子（生18） 小林健二（生19） 【留守部隊】 南形徹（生14） 大澤貞男（生13） 芦田義和（生15） 内村ナナ子（国18）

【訪問先】 仙台・豊齢学園、女川町役場、女川・第一、第四保育所、女川小、女川・運動公園住宅、献花台、名取・閑上小、名取が丘児童センター。



和やかに 笑顔つながる



上段㊤=6日、女川町復興住宅集会所でディスコン大会。
㊥=3日、女川第4保育所でアンパンマンと遊ぶ。

写真=四方久幸・海野龍英撮影



2段目㊦=3日、女川第1保育所で演技を披露する振興協会のドレミちゃん。
㊧=4日、名取が丘児童センターであやとりを楽しむ。



㊨=3日、「回ったよ！」女川第一保育所で風車作り。㊩=3日、女川小学校で七夕の飾りつけ。

㊪=4日、名取の小学校で豊齢お手玉サークルと一緒にお手玉に挑戦。



㊫=11日、料理教室で踊りの師匠が飛び入り参加。会場が一気に和む。



好評だった第5次活動

大震災から3年経って、訪問先の女川町・連携先の仙台豊齢学園で窓口となる担当者の異動があり、学校などの環境も変化しました。公演内容や日程の調整が進まず、担当理事が2度も現地に足を運ぶなど、第4次までとは違う現地の反応に少なからず戸惑いました。

一方、今回初めて訪問した女川の二つの保育所では、「昔遊びのボランティアが来てくれたのは初めて」と大歓迎をうけました。建ったばかりの復興住宅集会所では、私たちの〈料理とディスコン〉がオープニングイベントとなり、予想を超え



▲5日、女川町の献花台で犠牲者の冥福を祈る

女川・須田町長と懇談

3日早朝、〈わ〉のメンバーと協会の吾郷・佃氏が女川町役場を表敬訪問。須田善明町長と懇談しました。町長からは「毎年女川を訪れてくれてありがとうございます」との言葉があり、堺理事長も「できる限り女川との繋がりを大切にしたい」と応じました。町長は、住宅や漁港の復興デザインを示しながら「災害に泣かない町づくりをしたい」と熱い思いを語ってくれました。

◆プレゼント 〈わ〉の理事が持ち寄ったあめ玉・ボールなど100人分を持参。保育所と児童センターの子供たちにプレゼントしました。復興住宅集会所には交流会で使ったディスコン用具3組とたこ焼き器2台をグループ〈わ〉の名前で寄贈してきました。福祉振興協会からもしあわせの村産のラベンダースティック、月下美人の鉢植え、クッキー詰め合わせなどを訪問先に贈りました。

◆メッセージ 竹の台小・甲緑小・岩岡児童館・井吹台児童館の子供たちが作成した手紙やイラスト入りのメッセージを女川小と閑上小、名取が丘児童センターに届けてきました。

る参加者に沸きました。関係者から「有意義で楽しい催しだった。来年もぜひ」と感謝されました。いずれも、私たちの

活動内容、手際の良い運営ぶりを評価されたものと思い、自信になりました。振興協会とは今回も一部日程で合同公演。プログラムに双方の特色を織り込んで一体感を演出しました。ドレミちゃんはダンスに風船アートに活躍。子供たちの人気は抜群でした。仙台豊齢からは今回もお手玉グループが参加。一緒に昔遊びをしました。ただ、与えられた時間内で目いっぱいプログラムを組んだので、3者とも「もう少し時間があれば」との思いを強くしたようです。今後の検討課題になりました。

初参加の堺理事長は「現地を踏んで、皆さんの反応を目の当りにして、私たちの活動が少しは役立っていることを実感した。これからも何とか続けたい」と今回の活動を総括しています。(み)

協会チームの感想は

協会チームは1～2日に仙台・荒井小、東六郷小へ。3～4日は〈わ〉と合同で女川、名取を訪問しています。4日間の感想を佃孝司氏に聞きました。

「プログラムは予定通り、うまくいきましたね。〈わ〉や仙台との連携もまずまず。もう少し時間に余裕があればよかったが…。今回、ドレミちゃんにダンスの手ほどきをしてもらい、子供たちは大変喜んでくれた。今後も一緒にやれるような内容を、と思っている。〈神戸とは絆がつながっています〉と東六郷小の校長がしみじみ語っていましたが、〈お土産にももらった月下美人が咲きましたよ〉とのお便りが次々届き、私も深い絆を感じています。来年は節目の5年。支援内容を考え、継続したいと思っています」。

派遣費用はサポート募金で

第5次チームの派遣費用は福祉助成金が不採択になったのでサポート募金の残高(110万円)を充てました。主な内訳は宿泊5日分215000円、鉄道運賃443832円、レンタカー・高速99287円、荷物発送31710円、食材35721円、贈答・土産(ディスコン3組、たこ焼き器2台等)59726円、昔遊び材料10828円、献花・謝礼・文具50288円で合計94万6392円でした(食費・雑費は個人負担)。◆サポート募金賛同者(4月1日～7月10日分・敬称略)佐藤淑子(生12)千円、佐々木可津(美16)5千円、俵貴志子(生16)8千円、森考生(国11)5千円、植田収(福7)2千円、フラパガイドG720円、増金スミ子(福11)1万円、堺汎(園15)5千円、民謡クラブ1万円、茅中英一(生11)5千円、黒坂泰(生9)千円。

活動レポート

兵庫区会 独居高齢者の見守り17年

区会活動の1つに、震災復興住宅（兵庫キャナル住宅）での被災高齢者の見守りがあります。H9年4月、区社協からの依頼により始めた活動で、早くも17年が経ちました。当初は、訪問先も14～5軒と多く、私たち「ひまわり」メンバーが手分けして訪問していましたが、年が経つにつれ数も減少。今では、5軒程になりました。



訪問は週1回、2～3人で伺います（写真⑤）。「こんにちは。お元気ですか？」との声かけに、「元気ですよ。いつもありがとうございます」と、笑顔で返事が返ってくると嬉しくなります。時には、医療機関につないだり、心配ごとや相談に応じたりすることもあります。主目的は安否確認です。幸いなことに、現在まで「孤独死」を出したことはなく、本当に恵まれているな…と感謝しています。訪問を心待ちにしてくれている皆さんの気持ちを励みに、「いつも笑顔」を motto に活動を続けていきたいと思っています。

（宮城智子・音2）

東灘区会 ようこそ酒蔵巡りへ

晴天に恵まれた4月19日、「東灘ボランティアガイドの会」は、KSC歴探クラブ172人の大集団を案内して、酒蔵巡りをしました。全体を7班に分け15人のスタッフで、住吉神社～香雪美術館～弓弦羽神社～深田池公園～だんじり会館～倚松庵～白鶴酒造～菊正宗のコースを、5時間歩きました。



菊正宗前で説明するスタッフ

「一日探訪を楽しめた」「酒蔵での試飲が物足りなかったかな」と、感想はさまざまでしたが、住吉・御影地区の良さを満喫していただいたよう

です。会としても、こんな大勢の相手は初めてだったので、不安もいっぱいでしたが、トラブルもなくゴールすることができ、スタッフ一同ほっと胸をなでおろしました。

この会は、昨年4月、区会のボランティア活動として発足。OBと現役を含めた現会員は25人。毎月の例会では、コースの実地研修をして楽しんでもらえるように工夫しています。東灘の街歩きは、私たち「東灘ボランティアガイドの会」にお任せください。（宮田幸長・美17）

西区会 コーロむつみがコンサート

設立10周年を迎えたコーロむつみ（児玉浄代表・生1）は5月31日午後、西区なでしこホールで初の記念コンサートを開催。プログラムは3部構成で、1部は愛唱歌、2部は施設の皆さんと歌で交流、3部は懐かしのヒットメロディと盛りだくさんの内容でした。心配していた客席も、450人と満席に近い状態で、身の引き締まる思いがしました。



施設の皆さんと楽しく共演

今回の目玉は、10年来ご縁のあるボランティア先の利用者の皆さんと、舞台上で共演（共感）すること。3施設（「ながさか」「なでしこ」「ファミリー・イン」）の皆さんとの共演は、観客の方々からも「息もぴったり！」「見ていだけで楽しくなった」と大好評。長年の夢が叶いました。

コーロむつみは、梶谷（音1）さんら1～3期生が中心となって平成15年に立ち上げたもので、以降、区会のボランティアグループとして活動しています。現団員は28人。3施設へのボランティア訪問を始め、年1回は地区の合唱祭への参加や、垂水区の合唱団との交流など幅広い活動を行っています。

コンサート開催にあたっては、西区会の役員、施設の職員、その他多くの方々のお力添えのおかげだと感謝しております。

（有田幸司・音8）

学習支援・地域連携 ニーズに応える



グループくわ 第11回定期総会

NPO法人グループくわの第11回定期総会は、5月15日にカレッジホールで開かれ、25年度の事業報告と26年度の事業計画を承認し、理事長に堺汎氏を再任。新任の理事6人も選び、非常勤理事、監事を含め、計20人の新体制が発足、26年度の活動がスタートしました。総会后、功労会員に選ばれた会員3人と2団体の表彰式も行われました。
(8面に関連記事) (広報・永野 知己)

総会は増金スミ子さん(福11)の司会で午前10時に開会。堺理事長が「1年ぶりに懐かしいお顔を拝見でき、大変うれしい。総会出席ありがとうございます」と挨拶。来賓の藤本義兼シルバーカレッジ事務局長から「<再び学んで他のために>を文字通り実践されているみな様に心から敬意を表します。子どもたちの見



総会で事業報告をする堺理事長

守り・学習支援、東北支援など活動は多岐にわたり、大変心強い。地域をよくするには、行政だけでは、細かいところに目が届きません。みな様の力をお借りしたい」と祝辞を述べました。

続いて議長に加藤勇治氏(美工10)を選出。「出席者118、委任状659の計771で定足数661(会員総数1322人の2分の1以上)を上回っており、総会は成立」との報告があり、議事に移りました。

堺理事長は「25年度は、花実の森の里山活動を推進、小3対象の自然環境体験学習を進めた。伝統文化、戦争体験などの出前講座にも力を入れた。東北支援では7月に第4次チームを女川町、名取、仙台市に派遣し、仮設住宅や小学校を再訪、被災地との連帯・心の絆を深めた。長田区の地域人材支援センターにパソコン塾を開設、ゼロから学びたい人を支援した」と事業報告。決算報告とともに拍手で承認されました。

【平成26年度の新役員】

理事長	堺 汎	(園15) = 西
副理事長	小畑 浩昭	(国16) = 企画・北
副理事長	吉本 弘	(音17) = 総務・垂水
理事	北浦 俊明	(生16) = 財務・西
理事	井口 久美子	(福16) = 広報・長田
理事	田路 義弘	(生17) = 事業・須磨
理事	俵 貴志子	(生16) = 総務・中央
理事	山本 都子	(生17) = 財務・兵庫
理事新任	古後 健一	(福18) = 企画・西
理事新任	水町 亮治	(生18) = 総務・中央
理事新任	永野 知己	(生18) = 広報・須磨
理事新任	岡本 紘一	(生18) = 広報・垂水
理事	北村 洋	(生17) = 事業・北
理事新任	四方 久幸	(国18) = 事業・北
理事新任	内村 ナナ子	(国18) = 事業・中央
理事(非)	海野 龍英	(食16) = 垂水
理事(非)	土井 昭政	(国10) = 区会長・北
理事(非)	柳川瀬 淳一	(国13) = 部会長・須磨
監事	長谷川 洸士(国11・北)	南形 徹(生14・北)

【区会長】東灘=中谷 一郎(生15)

灘=木下 完治(食10) 中央=久保 正志(国14)
兵庫=大掛 敏夫(生7) 北=土井 昭政(国10)
長田=藤田 忠之(福13) 須磨=細野 恵久(福3)
垂水=板野 武一(生16) 西=水野 俊夫(国14)

【部会長】福祉=加藤 勇治(美10)

国際=柳川瀬 淳一(国13) 環境=池田 八郎(生17)
文化=重松 豊彦(国9) いきがい=松井 康有(食15)
▽環境未来館責任者=古川 孝友(生12)
▽須磨一ノ谷 プラザ責任者=藤田 忠之(福13)
▽学習支援委員会 委員長=西田 圭一(生9)

続いて新役員20人(別表)が拍手で承認され、堺理事長が26年度の事業計画を説明。「神戸市などから受託している、従来の神戸環境未来館、児童虐待電話相談、いじめ・体罰電話相談や自主事業の須磨一の谷プラザの管理業務を継続する。東北支援の第5次隊は7月に派

遣する。被災地のニーズも変わってきているので、実情に沿うようにしたい。昨年、テスト的に実施した須磨パティオでのお買いものサポーターを本格実施する。毎週木曜日に2人が張り付き、お年寄りらのお手伝い

対象としたNPOや児童館での活動を続けていますが、昔あそびやマジックなどのクラブの貴重な経験がたいへん役に立っています。

◆水町 亮治(総務) 〈わ〉の活動について、殆ど無関心でしたが、1,300人を超す卒業生が入会、「再び学んで他のために」を实践され、部会・区会など様々なボランティアに参加して、活躍されていることに驚いています。無芸・無知ですが、会員の皆さんが明るく・楽しく活動出来る様に、裏方として少しでもお手伝い出来れば幸いです。

◆岡本 紘一(広報) カレッジで情報誌「爽風」の編集委員を3年間やった事が縁で〈わ〉の広報を担当させていただくことになりました。ぎやらりーわの他、ホームページも担当。みなさんの活動を早く、多く、判り易く、内外に知らせることをモットーに働きます。

◆永野 知己(広報) 新聞づくりは、どのページにどんな記事を書けるかの企画、記事取材、写真撮影、誌面のレイアウト、校正、印刷、発送と仕事は多岐に

わたります。初めての人には難しい仕事です。でも、カメラ、文章など何かか得意な人はおられ、得意分野なら、楽しく、長続きます。



昼食の弁当を取る会員

〈わ〉では「出来る仲間」を見つけ、息の長い活動を目指します。

◆四方 久幸(事業) 情報誌、学園祭実行委員会、「写真クラブ」、「びかぴか隊」「国際友の会」等々の経験を活かして〈わ〉の活動に貢献できるように頑張ります。多くのグループ、会員の多彩な、積極的な活動をサポートするのが私の役割です。

◆内村 ナナ子(事業) 自分のことよりも人様の事が気になる性分。第1、2、4次東北支援に参加しました。田んぼのガレキを片付けているとき、アルバムや帯、服が出てきて「日ごろの暮らしが、突然、奪われたんだ」と胸をつかれた。〈わ〉が地域に根差した活動を続けられるよう、微力ながら努力します。



第11回定期総会に出席、活動報告を熱心に聞く会員

をする」と述べました。

26年度の事業計画、事業予算を原案通り、拍手で承認、11時過ぎ議事を終了。このあと、部会長・区会長、環境未来館・一の谷プラザ責任者、学習支援委員長に選出された17人(別表)を紹介。東灘区会長、環境・文化・生きがいの各部会長が交代しました。

昼食休憩をはさんで12時40分からカレッジホールで「男はつらいよ」シリーズ最終作の「寅次郎 紅の花」を上演。寅次郎が阪神大震災後、長田でボランティアをしていた姿もあり、「これだけを見逃していたので、ありがたかった。寅さんには、いつも笑わされ、泣かされる」と相変わらずの人気でした。

〈わ〉の財政 厳しい状況続く

〈わ〉の予算規模は約3,900万円。2つの電話相談や環境未来館などの委託事業収入が8割弱を占め、残る2割強を福祉関係の助成金と年会費(200万円)などで補う形となっている。25年度の収支は、わずかな赤字となった。26年度は、新入会員が130人にとどまり、会員総数は昨年と同じく1,322人(4月10日現在)。助成金の枠も細ってきており、活動内容の見直しも求められるといった、財務的には厳しい状況が続く。

みなさまをサポート 新理事の抱負

◆古後 健一(企画) カレッジ入学直後、〈わ〉の事務所に飛びこみ、東北支援隊の一行に加えてもらったのが〈わ〉との出会いでした。地域では、子どもを

功労賞の3人・2団体を表彰

グループ〈わ〉の26年度功労賞に選ばれた個人3人・団体2グループが5月15日、〈わ〉の第11回総会で表彰され、堺汎理事長から表彰状と副賞が手渡されました。個人は、増金スミ子（福11 西区）・松村尚雄（福13 長田区）・菅田忠志（生11 須磨区）の皆さん。グループは、楽遊クラブ銀雅（重松豊彦代表）とさおり・たまも（永井照子代表）です。

菅田忠志（生11）ウォーキングで地域貢献
増金スミ子（福11）大道芸で慰問活動10年
松村尚雄（福13）中国健康体操の普及
楽遊クラブ銀雅 銭太鼓演奏で施設訪問
さおり・たまも 施設でさおり織作品製作



喜びの受賞者（左から）永井照子（さおり・たまも代表）・重松豊彦（銭太鼓代表）・松村尚雄・増金スミ子・菅田忠志の皆さん

表彰式には、選ばれた個人3人とグループ代表2人の計5人が出席。堺理事長から「長年にわたってボランティア活動を続け、グループ〈わ〉の発展に貢献されました」と感謝の言葉があり、この後、皆さんの活動ぶりが映像で紹介されました。

今回で5回目となる表彰制度は、個人で7年、団体では5年以上のボランティア活動歴があり、〈わ〉に貢献している個人やグループが対象。推薦のあった候補者は、個人5、団体3でしたが、昨年度の運営委員会で、「もう少し候補者を絞った方がいい」との意見が出たこともあり、個人3、グループ2に決定したものです。（活動内容の詳細は、66号に掲載しています）

受賞を励みに…活動を続けます

表彰式に出席の皆さんから寄せられた受賞の感想をご紹介します。（敬称略）

▼増金スミ子＝「冥途の土産に南京玉すだれを、今一度見たい」と94歳のおばあちゃんに頼まれ、雨の中、出かけた。1人でも100人でもお客さま。先輩、朋友、後輩に恵まれ、黙って見守ってくれる夫、健康を気遣ってくれる子どもたち、孫に囲まれ、大好きな活動は修行の真最中。このたびは過分な賞をいただき有難うございました。

▼松村尚雄＝功労表彰をいただき光栄に思っています。自分自身の健康のため始めた中国健康体操、太

極拳の練習を、地域の方やKSC太極拳クラブの皆さまと楽しく継続しています。毎水曜日には、しあわせの村「たんぼぼの家（中庭）」でも行っています。興味のある方は、ご参加ください。今後とも、ご支援よろしく願いいたします。

▼菅田忠志＝このたび、須磨区会長の推薦で功労賞をいただきました。恐縮しながら、「SC友が丘クラブ」の地域活動の成果としてお受けした。地域の方と進めてきた「友が丘月例健康ウォーキング」も徐々に認知され、近隣区からの参加も増え、延べ1,000人に達しました。この受賞を励みに続けます。

▼楽遊クラブ銀雅：重松豊彦代表（在籍16人）＝カレッジで銭太鼓に出合った仲間が、卒業後も建学の精神を生かそうと13年。「明るく楽しく元気よく」をモットーに、年間100日以上活動をしています。今回の受賞は、創部以来演技指導をいただいている澤田京子先生や諸先輩の活動を評価された結果で、これからも一層頑張れのエールだと存じます。

▼さおり・たまも：永井照子代表（在籍5人）＝私たちは、さおり織で袋物の他、様々な作品を作っています。それぞれ織り方が異なり、少しでも良い作品をと日々試行錯誤していますが、皆さまに喜んでいただける、このボランティアに生き甲斐を感じています。今回、それを評価していただき、大変嬉しく、ありがたく思っています。

（広報・井口久美子）

緑の里山汗流す



ボランティア最前線

里山グループ

野や山が一番生き生きするのは「初夏の今でしょ」。

KSCを取り巻く里山を一度探索してはいかがでしょう。色とりどりの花々が出迎えてくれます。

この魅力にはまったKSC4期、6期のOB8人が平成12年、里山グループを立ち上げ、環境部会に初名乗りをあげました。生環コースで講師も勤めた谷口博先生がリーダーでした。

7、8、9期OBも相次いで入部。カレッジ北側の鬱蒼とした山の下草を刈り、生い茂る樹木を伐採して間引き。花の咲く木や草を育て、癒しの場となる里山作りをめざしたのです。常緑小木から伐採を始めました。2、3年もすると日当たりや風通しがよくなり、植えた覚えのない草花が次々と芽をだし、花を咲かせます。今は、紫式部、笹百合、吾亦紅など草花の宝石箱となっています。

これまでにシイタケ栽培用にコナラ200本を切り倒しました。これを乾燥させてほだ木を作ります。ほだ木にシイタケ菌を植え付けると、1本で数十個が3年間は収穫できます。

里山グループは、子ども対象の環境教育にも力を入れてきました。「自然を大切に」の心は、小さな子どものときからの自然との触れ合い体験が大ききものを言うからです。KSCや環境未来館での「夏休みお助け隊」で木や実の工作、ツタなどでリースを

作り、「春を食べる」で子どもたちと山菜などのてんぷら試食会なども開催。生環コースの授業、花実の森プロジェクトにも協力しています。

今年度は立ち上げ当初からのメンバーの松本義彦さん(生環6期、75歳)を再度会長に、元気な18期生7人を迎え、44人で里山の維持、再生を続けています。

× × × ×

6月3日、午前9時30分から11時までの例会(毎月、第一火曜日と第三金曜日)を取材しました。参加者は15人。草刈り機を使って山裾のササを刈りました。



カマを使う人もいます。1時間足らずで、さっぱりしました=写真上。

杭を何本も打ち、周囲にロープを張っています。「花は野にありてこそ」を分からぬ無粋な花盗人が居るらしく、珍しい草花が、盗まれないようにするためです。

山に入るとシジュウカラ、ヤマガラが子育て中で、12羽のひなにエサを運んでいる夫婦も。会員がキイチゴを摘んで「食べてみて」と渡してくれました。口に含むとよい香りがし、瑞々しくてとても甘い=写真中。

お茶を飲みながら、何が楽しいかを聞きました。「四季折々の花が見れる。緑が一杯で、空気もいい。いい人ばかりでともに汗を流すのが心地よい」と口々に話してくださいました。

悩みの種は、会員の高齢化。「私たちが苦勞に苦勞を重ねて手に入れた知恵、技術、経験をぜひ、次世代の人に伝えたい。入会をお待ちします」と力を

込めていました。

(取材・写真＝広報 徳原 尚世、永野 知己)



上手に使おう 介護保険 ①

申請から認定まで

介護保険制度がスタートして14年。保険料は支払っているが、実際に利用するとなると分からないことが多く、K S C世代にとっても、他人事ではありません。家族が介護を必要とする状態になった時、「どうしたらよいか？」についてシリーズで考えてみましょう。

介護保険サービスを利用するには、「要介護認定」が必要になります。申し込み先は、①各区の介護保険担当窓口②あんしんすこやかセンター（注・神戸市の場合）です。

申請の際は、①介護保険被保険者証②認印③主治医の意見書を求められます。

医師は患者の病状は診ても、生活状況まで分からないため、医師に「きちんと説明」することが大切。いざという時のためには、日頃から親身になってくれる「かかりつけ医」を見つけておくと良いでしょう。

申請を行うと、認定調査員が自宅を訪問。「寝返り」や「起き上がり」など74項目の基本的な身体の動きや日常生活の様子、物忘れや病気の履歴などの聞き取り調査を行います。利用者の実態を正確に伝えるためには、日常生活を把握している家族が立ち会いましょう。

聞き取り調査、主治医の意見書を踏まえて、介護認定審査会で要介護度を判定。介護度は重い順に、「要介護度5」から「要支援1」までの7段階となります。申し込みから認定までは、原則30日ですが、実際には1か月半～2か月位かかることもあるようです。もし、認定結果に不服がある場合は、都道府県ごとに置かれている「介護保険審査会」に異議申し立てをすることもできます。（次回は、ケアプラン作成時の注意点や負担額について）

堺壽代・音文9期 西区会

堺壽代さんはH15年から義母の介護にあたり、カレッジ卒業後のH20年には介護福祉士資格を取得。その介護経験から介護保険の問題点・上手な利用法をシリーズで執筆してもらいます。



学習支援活動の更なる発展を！

26年度第一回の学習支援の集いが、5月9日午後、カレッジの音楽室で開催され支援者約20人とカレッジの地域交流活動の田阪リーダーが参加しました。



最初に、川上弘一氏（福12）が25年度の活動報告を行いました。学習支援、戦争平和語り部、昔遊びについては

要請にこたえることは出来ましたが、特別支援について、8校の支援が残念ながら出来ていない状況。活動者数（50人）と支援延べ時間は増加傾向にあります。体験報告として徳原尚世さん（国9）が花山地区で開始した活動内容を、学習支援委員長である西田圭一さん（生9）が、西神中学校校区での「美竹っ子応援団」についての活動内容を紹介しました。「美竹っ子応援団」は、市が進めている神戸っ子応援団として地域が一体となり立ち上げたもので、学

習支援の他に、小中学校合同の行事としてふれあいまつりも実施しています。26年度も多くの小学校より支援要請がきており、この学習支援活動を更に発展させるには、カレッジの地域交流活動と〈わ〉の学習支援活動を一体化することも必要であると説明がありました。（広報：岡本紘一）

桜の散水スタート

20周年記念の桜への水やり作業が、5月30日からスタートしました。夏の間は週2回、春秋は週1回ずつ行います。メンバーは、北区会の有志4人（淡路忠義（福5）・佐伯義昭（国8）・北山悦子（食14）・中須賀毅（福16）と、本部理事が交代で当たります。



初日は30度近い夏日。担当した北山さんは「1時間くらいかかったが、なんとか継続できそう」と汗をぬぐっていました。土井昭政区会長は「地元でもあり引き受けた。手を挙げてくれた皆さんには感謝している」と話していました。

ボランティアの心

入所者に寄り添い10年

カレッジ卒業後グループわ事務局に入り皆さんから提出された活動報告を見て、多くの方が色々なボランティア活動をされている事を知りました。暫くして、「滝谷グループホーム」で夜間の見守りに誘われたのが、私のボランティアの始まりです。

ここは小規模の知的障害者の自立支援施設で開所したばかりでした。私たちは夜8時までに出向き、管理者と交替し入所者の夜間見守りをします。当初は対応に戸惑いがありましたが、そのうち個性に応じた対応が出来るようになりました。

ホームのドアを開けると、「こんばんは」と部屋から出てきて挨拶する人、今まで居間でテレビを見ていたのに「こんばんは」と挨拶し、暫くすると自室に戻る人。私たちと一緒にテレビの前で、懐メロを聞いたり、プロ野球の応援をしたりする

人と様々です。時には自分の今の状況を長い時間かけて話をする人もいます。その時、私は聞き手に徹するようにしています。

朝もそれぞれの出勤時間に合わせ起床して来ますので、私が起こしに行くことは滅多にありませんが、あまり遅いので部屋をのぞくとテレビを見ているので、朝食を食べるように急がすこともあります。出勤時間が来ると、「行ってきます」と挨拶をして出て行きますので、玄関で確認し送り出します。全員の出勤後に戸締りをして帰宅します。

彼らとは、時に就労先のしあわせの村で出会ったり、町で出会ったりすることもあり、その際は彼らから声をかけてきます。

この施設でも75歳の定年制が採り入れられ、この春、私を含め4人が退任しました。

身体的にも引き際だったと思います。入所者に寄り添い、共に過ごした10年は、私の財産。いい経験をさせてもらったと喜んでいきます。

(堀内昭 食6期・北区会)

国際部会 車いすテニスを支援

第21回国際車いすテニス大会（神戸オープン）が4月26日～29日の4日間、三木市のブルボンビーンズドームで行われ、国際部会と北区会から11人がボランティアとして参加。関空や神戸空港での送り迎えからバスの添乗、飲み物や弁当の配布、廃棄物回収など、早朝から夕方まで奮闘しました。

今年は外国人選手が韓国から9人、アメリカ、タイから各1人、日本人選手64人の計75人が出場して



熱戦を繰り広げ、男子は世界ランキング1位の国枝慎吾選手が、女子は上地結衣選手が優勝しま

した。表彰式の様子（柳川瀬淳一撮影）

選手たちは、車いすを操りながら健常者顔負けのラリーを展開、観客席を沸かせました。空港からの送迎バスの中でも、とても障害者とは思われない朗らかな笑い声が止まず、お世話する私たちも元気を貰いました。この大会は毎年お手伝いしていますが、選手たちが来年もぜひ参加してくれるように願っています。（柳川瀬 淳一・国13 須磨区会）

未来館「ピオトープ観察会」開催

水辺のオモシロ植物を発見しようー。6月21日午前、環境未来館で「自然体験教室」が開催され、親子連れ6組・21名が参加しました。講師は、兵庫・水辺ネットワークの高島正氏。佐藤泰仙（生15期）さんら、6人のスタッフがサポート役を務めました。

高島講師から、水辺の動植物について説明を受けた後、玄関横にあるピオトープに集合。



植物や生き物を見たり触ったりしながら、「動植物の生体系」や「ピオトープとは何か」「外来植物」などを熱心に学習。その後、教室に戻った子どもたちは、「植物についていろいろと知ることができた」、「ヨモギは草餅の材料だけでなく、血を止めるのに驚いた」などの感想を発表。短時間なのに、良く先生の話の吸収していることに感心しました。=写真はピオトープ前で学習する子どもたち

ピオトープ観察会予定：8/9・9/6・10/11・11/15（詳細は未来館995-3196まで）（取材・広報委員 知地正紘）

カレッジだより

新入生歓迎交流会



3学年合同20期新入生歓迎交流会が5月19日～23日の間、国際交流協力、生活環境、健康福祉および美術工芸・音楽文化、園芸・食文化の順番にカレッジホール・学習室においてそれぞれ実施されました。新入生からの質問、アトラクションや写真撮影などで会場は大いに盛り上がっていました。

ボランティア活動報告会

第19回ボランティア活動報告会が6月11日(水)、ボラセン傘下の30グループが参加して開催されました。カレッジホールではグループ活動紹介とグループわの紹介がパワーポイントで行われました。続いてパフォーマンスによるグループ紹介が大正琴に始まり、コーロKSCまで13グループについてあり、多くの拍手を受けていました。ふれあいホールでは作品展示と販売が行われと共にパネル展示(グループわも)も行われました。和室では公開懐古茶会が、園芸室では紙漉き体験教室が開かれました。

地域交流会

26年度の地域交流会が6月24日須磨・垂水区、25日北・兵庫区、26日東灘・灘・中央・長田・西区の日程で開催されました。

今回はテーマとして「つながる・繋がる・BONDS」を掲げ、第一部の総会・講義はカレッジホールで活動報告と「地域の人とつながる」というテーマのもと神戸市より「ふれあいまちづくり協議会」について講義がありました。

今回より第二部は区毎に分かれて「地域のKSC先輩とつながる」をテーマにグループわの区会長から区会の活動状況の紹介がありました。



午後は、地域のグループ毎に分かれて「KSCの仲間とつながる」をテーマに、自己紹介や活動内容の説明や討議が活発に行われていました。=写真は須磨区会の紹介を行う細野区会長

(広報・岡本紘一)

私のボランティア日記

花山梅林会 徳原尚世(国・9)

6月13日晴れ!花山・大池両小学校3年生、総勢150名が楽しみに待っていた梅採りの日。これまでは花山小だけでしていたのを、今年初めて大池小を花山梅林に招待しました。

3年前にスタートした地域で学校を見守ろうの神戸っ子応援団の主旨に花山梅林会も賛同。2校合同行事の運びとなりました。急斜面も何のその、背も腕も伸ばせるだけ伸ばしてぶら下がり、見る見るバケツは一杯!そして採った梅の実と思い出をリュックに、もう仲良しになった大池の友が歩いて帰校するのを、花山小のみんなは長蛇のアームトンネルで名残惜しく見送りました。将来同じ中学校で机を並べることになるんだよね。梅ちゃんもこれから2校の交流に役立つんだとはりきっています。

芸工大で〈わ〉が出前講演

神戸芸術工科大(西区)で6月5日、グループ〈わ〉がボランティア活動について講演しました。講師役は田路義弘理事と南形徹監事。デザイン学部ビジュアルデザイン学科かわい・ひろゆきゼミの1~2年生15人を相手に、「再び学んで他のために」の校是にもとづくカレッジの教育、〈わ〉の成り立ち、組織、活動内容を説明したあと、現在、力を入れている東北支援について記録ビデオを上映しながら南形監事が現地での体験を話しました。

その後、〈わ〉と芸工大の連携活動について意見交換。田路理事が常盤大や親和大の例を引きながら、夏の村祭り、かえっこバザールなどの実情を説明。「かえっこバザール」を一緒にやってみよう」と乗り気で、〈わ〉の方で関係者と調整することになりました。

神戸芸工大は今年度からカリキュラムに社会貢献を取り入れ、学科ごとに勉強会を開いています。この日の講演も、かわい教授から神戸市社協を通じて〈わ〉に依頼があったものです。参加15人のうち13人が女性。「いろんな活動があるんですね」「絵を生かした活動がしたい」「昔遊びに興味がある」「子どもと一緒に遊びたい」「芸工大らしい活動を見つけよう」……感想はさまざまでしたが、若い女性の感性を生かしたプランが実現できれば、〈わ〉にとっても嬉しいことだと思いました。

(広報委員・南形徹)

WAからのお知らせ



〈わ〉会員1,353人に

グループ〈わ〉の会員が、6月末で1,353人となりました。新入会員は154人で昨年、一昨年に比べ少し減少しましたが、会員総数は、ほぼ昨年と同様です。卒業後の人生を更に豊かにするために、〈わ〉の仲間に加わって活躍しませんか。年会費は1,500円です。

花実の森は今・・・

すっかり夏衣装に衣替えした花実の森では、足元の草花もスマレやササユリからオカトラノオに、野鳥の声もウグイスからホトトギスに主役も変わってきております。市内小学校の『カブトムシ分校』として、花実の森で育てているカブトムシの幼虫も、そろそろさなぎを経て成虫に羽化（写真）してきます。子どもたちの待つ学校へ“転校”する日もまじかです。
(菅田忠志・生11)



●**フィリピン災害救援募金** 2月に神戸市福祉協議会へ寄託したフィリピン災害救援募金46,000円は、市社協に集まった募金（831万円）と一緒にイロイロ市へ送られました。デイケアセンターの運営や教室などの補修に充てられるとのことでした。

●**福祉医療機構の助成金“却下”** 独立行政法人福祉医療機構に申請していた助成金(290万円)は、6月27日付けで不採択の返事がありました。この助成金を使って活動している学習支援、東北支援、花実の森などは大きな影響を受ける恐れがあり、今後事業の見直しや縮小を検討せざるを得ない状況です。理事会で対応を検討しています。

●**区会・部会長交代替** 26年度の東灘区会長は中谷一郎さん(生15)に、環境部会長は池田八郎さん(生17)、文化部会長は重松豊彦さん(国9)、いきがい部会長は松井康有さん(食15)に決まりました。

●**〈わ〉のお盆休み** グループ〈わ〉事務局は、8月14日(木)・15日(金)の2日間、お休みを取らせていただきます。8月1日・4日・5日・11日・25日・26日・29日もカレッジ点検、清掃日のため、校内への立ち入りはできません。

●68号(10月号)の発行は2014年10月中旬です。

子どもたちの笑顔求めて

つづやき

グループ〈わ〉の事業のひとつに子どもたちを対象にした昔の遊びや伝承文化体験、夏休みの工作教室等があります。これらのイベントを運営する過程で苦勞もありますが、明るく健やかな子どもたちの楽しそうな笑顔を見て、私達も若さを吸収し、その笑顔に喜びを感じています。

もう一つの事業に、神戸市からの受託事業である「いじめ・体罰電話相談」と「児童虐待電話相談」があります。友達からのいじめや先生から体罰を受け、親にも話せず、人知れず悩んでいる子どもやその保護者からの相談や、「毎夜、異常な子どもの泣き声がする」との近隣住民からの通報など、毎日のように寄せられてきます。そのような不幸な子どもたちを早期に発見し、対応することにより、子どもたちに早く笑顔が戻ることを願いながら相談に応じています。ボランティアとは無縁に過ごしてきた私にとって、貴重な体験となりました。

(木田育義 前事業担当理事・北区会)

編集後記



4年間編集長を務め、誌面改革に腕を振った南形徹さんがこの5月で退任。今号から、フレッシュな18期生2人をメンバーに迎えて再出発しました。責任の重さをひしひしと感じていますが、これまでの誌面を継承しつつ、新たな企画にチャレンジしたいと思っています。(井口久美子)

理事就任の前から「卒業式」、「文化の祭典」などの取材、写真撮影を手伝いました。仕事の関係で誌面作りは慣れているものの、恥ずかしいものは作れないと、肩にちょっぴり力が入りました。今後は、〈わ〉の会員のみならずにも、誌面作りに参加していただきたい。(永野知己)

情報誌編集委員の経験では、足りないことが多く、4か月間無我夢中でした。特にホームページ関係は初心者であり、更新方法の習得と状況把握に四苦八苦しています。多くの情報を載せること、更新日付を明確にすること、構成の見直しなどを進めますのでご協力を願います。(岡本統一)

あどけない笑顔 真剣な目



㊦はぶんぶんごま、
㊧折り紙



ワイワイストリート初のフロアカーリング



おっかなびっくりの竹馬



㊨は木工体験、
㊩紙すき



㊪は皿回し、㊫あやとり



撮影：中屋好生・永野知己

グループ わ 7~9月のイベント

開催日時・場所	テーマ・内容と協力グループ	連絡先
7月26日(土) 15時30分~18時30分 しあわせの村 芝生広場	しあわせの村まつり こどもたちと昔あそびやスポーツを楽しむ。 協力:うらしまたろう、むかしあそび研究会、本部スタッフ	078-743-8092 こうべ市民福祉 振興協会
8月2日(土)~8月3日(日) 10時~12時・13時~15時 野外活動センター	夏休み「昆虫採集と標本作り」教室 村内の昆虫を採集し、簡単な標本に仕上げる。 講師 今給黎先生、協力:里山和楽会	078-743-8092 こうべ市民福祉 振興協会
8月5日(火)~17日(日) (上記期間の内12日間) 10時~15時 神戸市水の科学博物館	(わ)で遊ぼう 身近な木工工作、押し花絵、草木染め、パーニング・アート(焼き画)などを体験する。 協力:うらしまたろう、カーネーション、ケナフ、木工、花実の森、むかしあそび、和楽会、絵手紙、タンスの肥やし、マジック、銀雅、大正琴	078-351-4488 神戸市 水の科学博物館
8月6日(水) 10時~12時 地域人材センター	パーニングアート・アートに挑戦! 木札に電気ゴテで描くパーニングアートに挑戦する 協力:花実の森PJ	078-322-6678 神戸市環境局 地球環境課
8月10日(日) 10時~12時・13時~15時 しあわせの村 研修館	夏休み工作塾 夏休みもあと僅か、宿題の工作に挑戦する。 協力:ケナフ、むかしあそび、木工、里山和楽会、絵手紙・花実の森PJ、里山グループ	078-743-8092 こうべ市民福祉 振興協会
9月7日(日) 13時~15時 シルバーカレッジホール	かえっこバザール 不要になった玩具と、欲しい玩具とを交換し、楽しみながらリサイクル活動を体験する。 協力:神戸常盤大学、うらしまたろう、カーネーション むかしあそび研究会、他	078-743-8101 グループ わ
親睦行事		
9月6日(土) 9時~	ローンボールス大会 しあわせの村 ローンボールス場	078-743-8101 グループ わ
9月27日(土) 9時~	ペタンク大会 しあわせの村 球技場	078-743-8101 グループ わ

笑顔のわいわいストリート

5月5日の子どもの日に、しあわせの村・芝生広場で、「わいわいストリート」が開催され、700人を超す家族連れが楽しい一日を過ごしました。

あいにくのお天気でしたが、芝生広場には、4つのサークル(むかしあそび、うらしまたろう、木工、ケナフ)と本部スタッフの総勢120人によるブースが並び、子どもたちは各ブースを順番に回り大喜びでした。中央の広場では、今回から取り入れたカーリングを、多くの子どもたちが順番に楽しんでいました。小雨が降り続いたため、小学生以下の有料入場者数は204名でしたが、参加した子ど

もたちにとっては待ち時間が無く多くの遊びにチャレンジ出来、満足の笑顔が一杯でした。担当理事、各サークル代表は「天候が悪く残念でしたが、それでも200名を越す子どもたちに楽しんでもらった。子どもたちの楽しんでいる姿や笑顔にこちらも多くのエネルギーをもらった」と話していました。
=写真はP14参照 (広報:岡本紘一)

須磨区会 10月にウオークラリー大会

昨年大好評を得た「ウオークラリー大会」を、10月26日(日)に奥須磨公園で開催します。大勢の参加をお待ちしています。問い合わせは、須磨区会長(細野恵久・793-7219)まで。



新緑まばゆい再度山 元気に歩く参加者たち

春の「森林浴ハイキング」が6月3日に開催。案内役の森の仲間を含む21人が参加して、県庁前―大竜寺―修法ヶ原―布引の滝―新神戸（6キロ）を歩きました。（広報・永野知己）

文化の祭典 ささやかな交流

さる3月30日の「文化の祭典」でささやかな交流が生まれました。取材中、客席に座っていた4、5歳の女の子（写真⑤）にカメラを渡すと、興味津々。はきはきとした人懐っこい子で、六甲道児童館銭太鼓クラブの一員。その後、舞台上に上がり、一生懸命でした。お母さんに、写真をお送りしたところ、お礼状が届きました。地域との交流をめざす〈わ〉にとって、楽しく、ありがたい一日でした。（広報・永野知己）



トピックス



演技を披露する一寸奉仕の増金・船木さん

水の科学館で昔遊び

「見て、見て！お皿が回ったよ」（写真⑥）子どもたちの歓声が水の科学博物館（兵庫区）に響きます。5月3日～6日に昔遊び研究会、うらしまたろう、一寸奉仕、マジッククラブが日替わりでブースを開設。連日、200人を超す家族連れで賑わいました。（広報・井口久美子）

里山和楽会 ピンク色の観察会

コバノミツバツツジが咲き誇る「かがやきの森」で4月13日、イオンチアーズクラブの子どもたち43人を招いて自然観察会を行いました。子供たちは配布されたワークシートを手に「手より大きな葉を見つけた」などと歓声をあげながら、触ったり、臭いをかいだり、興味津々の様子でした。（谷口文子・生13）

